

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	20990
事業名	救急活動費					
評価担当課	所属名	消)警防部 救急課				
	課長名	庄司 隆広	担当者名	伏見 明洋	電話番号	011-215-2070
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	
事業の性質	<input checked="" type="radio"/> 経常経費	<input type="radio"/> 臨時的経費				
	<input type="radio"/> 内部管理	<input type="radio"/> 法定経費	<input type="radio"/> 指定管理			
事業内容	実施形態	<input checked="" type="radio"/> 直営	<input type="radio"/> 一部委託	<input type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助助成	<input type="radio"/> その他
	目的	短期	様々な救急事案に対応するため救急隊が迅速的確に活動を行うこと。			
		長期	急病や事故などにより発生した救急事案に対応すること。 市民への応急手当普及啓発を推進すること。			
	取組内容	【目的】急病や事故などにより発生した救急事案に対応する。 【内容】救急活動に伴う資機材等の維持管理経費 ①需用費、備品購入費…救急薬品消耗品等、食糧費、救急備品の購入 ②役務費、委託料、使用料及び賃借料…救急衣等クリーニング、救急廃棄物回収処理、救急救命士抗体検査、保険料、自動体外式除細動器保守点検、AEDリース ③その他…報酬、報償費、旅費、負担金				
実施結果	救急出動時に使用する資器材及び消耗品を計画的に購入し、当該年度中の救急要請すべてに対応することができた。また、市民への応急手当普及啓発を計画的に実施することができた。					
事業実施における工夫点	必要に応じて、適宜見直しを行っている。					
対象者	市民	開始	令和3年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	消防組織法、消防法、救急救命士法、消防力の整備指針、救急業務実施基準					
他都市の状況	関係法規に基づき本市と同様に行われている。					

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	91,445	102,736	97,890	107,019	
うち特定財源	86	100	66	6,100	
人工	18.8	18.8	18.8	18.8	
人件費	135,360	135,360	135,360	135,360	
計(事業費+人件費)	226,805	238,096	233,250	242,379	
事業費の内訳	令和3年度決算	救急活動用消耗品:35,763千円、応急手当普及啓発業務委託:22,399千円、救急資機材賃借:11,190千円、通信費:8,949千円、救急活動用資器材:6,814千円、B型肝炎等健康診断及び破傷風予防接種:4,486千円、救急廃棄物回収処理業務:3,656千円、その他:4,633千円			
	令和4年度予算	応急手当普及啓発業務委託:33,568千円、救急活動用消耗品:27,620千円、病院選定支援システム関係:7,829千円、救急廃棄物回収処理業務:4,367千円、救急隊員予防接種:4,359千円、救急関連備品:3,066千円、AEDリース:2,459千円、その他:23,751千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	救急出動件数の増加率			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	-9.80%		9.70%		
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	救急要請応需率			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	100%	100%	100%	100%	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	当該年度中の救急要請すべてに対応することができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	令和3年中における札幌市の救急隊1隊あたりのカバー人口は58,000人で、政令都市で最も多いが、すべての救急出動要請に対応できていることから、本事業規模は適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	適切である。救急出動件数の増加に伴い、救急出動要請から救急隊が現場到着までの時間が延伸傾向にある。そのため、重症症例には消防隊も出動させ早期に救急活動を開始できる体制を構築したほか、令和元年中から、救急事案の著しい輻輳に対応するため、救急資格を有する消防隊員が非常用救急車で救急出動する乗換運用の試行実施を継続している。また、救急事故予防の広報及び救急車の適正利用啓発と併せて、市民による応急手当の普及啓発を行っている。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	当該年度中の救急要請すべてに対応できていることから、対象者のニーズに適切に対応している。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	救急出動件数増加及び新型コロナウイルス感染症関連事案の増加に伴い、救急出動要請から救急隊が現場到着までの時間が延伸傾向にある。そのため、効果的な救急事故予防及び救急車の適正利用啓発と併せて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を踏まえた手法により、応急手当普及啓発を継続していく必要がある。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	救急活動で使用する資器材等の見直しを継続し、経費の現状維持に努めた。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	救急活動で使用する資器材等の見直しを継続し、経費の現状維持に努めた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善    ● 現状維持    ○ 休止・廃止 なし			
	予算	○ 拡充    ● 現状維持    ○ 縮小    ○ その他 今後も継続して、救急活動で使用する資器材等の見直しを図り、経費の現状維持に努める。		見直し効果額	0 千円